

京都府域の観光客拡大へ 「もうひとつの京都」プロジェクト

世界的な観光都市・京都市を域内に持つ京都府が、
京都市外に観光客を呼び込む「もうひとつの京都」事業を推進している。
地域の魅力的な観光コンテンツを発掘し、近年増加するインバウンド(訪日外国人観光客)を誘致して、
雇用創出や人口定着につなげようとする地域づくりの一環でもある。
その取り組みについて、京都府企画調整理事の今井真二さんに聞いた。



海の京都：天橋立ビューランドから望む天橋立

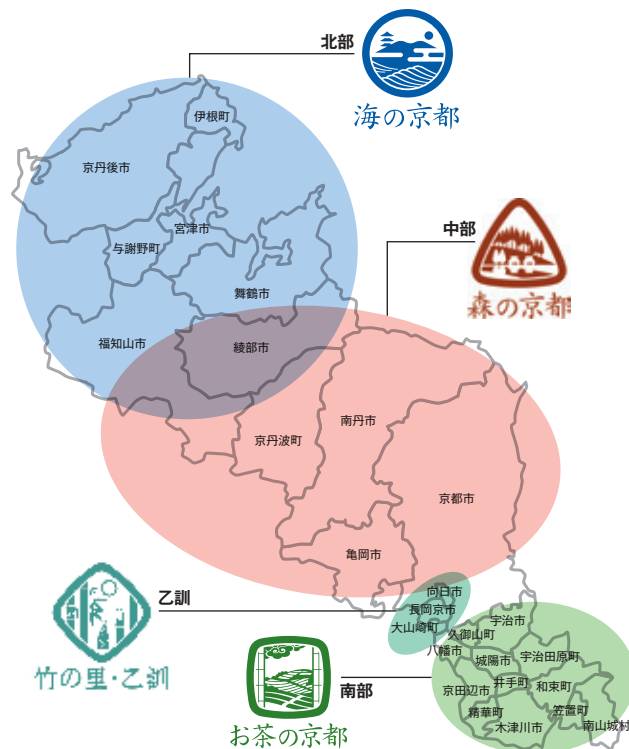
独自の観光コンテンツ

年間観光客数5千万人以上を誇る京都市内の観光客を広く府域に回遊させようと「もうひとつの京都」プロジェクトが進んでいる。展開エリアは京都府北部、中部、南部と乙訓^{おとくに}の四つ。それぞれの観光コンテンツを生かし、「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」「竹の里・乙訓」という特徴あるテーマで観光客誘致を打ち出している。

郡大山崎町に至る京都縦貫自動車道が全線開通し、名神高速とつながったこと。これにより京都市内から2時間以内で府内の各地域にアクセスできるようになり、京都市内の観光客を呼び込むことが可能になった。「交通網の発達をチャンスととらえ、人口減少に歯止めをかける新しい地域づくりの一環として観光に力を入れていくことになった」と、今井さんは事業発足の経緯を語る。

京都府全体の観光消費額の95%、外国人宿泊数に至っては98%が京都市内に集中している(17年京都府調べ)。観光客に京都市外まで足を延ばしてもらうには魅力的な観光コンテンツが欠かせない。「各地域を代表するテーマでプ

「もうひとつの京都」プロジェクト 展開エリア



上／お茶の京都：和束町の円形茶園。京都府景観資産登録地区に指定されている

中／森の京都：日本の原風景が残る山里、美山

下／竹の里・乙訓：毎年秋に「竹の径」で行われる「かぐやのタペ」。竹林がろうそくの優しい灯に照らされ幻想的な雰囲気提供：(公社)京都府観光連盟

ランド化を行い、しっかりと誘客、送客して儲かるしくみをつくり、地域に雇用が生まれたり新たな産業が生まれたりするような地域づくりを進めていく。そのために地域のアピールやホスピタリティも必要だ。全体で地域の魅力を磨き上げていくことが、取り組みの肝と考えている」と今井さんは強調する。

DMOと「民」主導

観光地域づくりは10年、20年と時間がかかる。長期的な視点で継続的に取り組んでいくために京都府は民間と協働し、戦略の調整やしくみづくりを行うDMO^{*}を組織した。ハワイ・ホノルルなど海外

^{*} Destination Management/Marketing Organization
観光地経営の人口総称

では既に実績があり、マーケティングや観光商品づくりなど観光地経営の主体として機能している。その日本版DMOは観光庁により「地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役」と定義されている。「もうひとつの京都」の場合、「海」「森」「お茶」の各エリアで、京都府と市町村が半分ずつ人材と資金を出し合ってDMOを設立し、民間を巻き込む地域の総合プロデューサーと



伊根湾を囲むように立ち並ぶ舟屋

して体験型旅行商品などの開発や海外からの集客プロモーションなどを行っている。将来はいろいろな事業を手掛け、地域が自走できるようにしていくのが目標という。

インバウンド周遊で実績

四つのエリアのうち、先行して成果を上げているのが北部の「海の京都」。なかでも宮津市のキラコンテンツである天橋立は国生み神話の舞台であり、「天地山海にいきづく和の源流」をコンセプトとしている。天橋立への観光客誘致を目標に、天橋立駅と駅前を整備し歩道を広げて歩きやすく

ハード・ソフトの充実へ

20年の東京オリンピック・パリピック、21年のワールドマスターズゲームズ2021関西、25年の大阪・関西万博などのビッグイベントは、「もうひとつの京都」を世界にアピールする絶好の機会だ。

「観光産業の成長に向け、DMOと行政が一体となつてうまくインバウンドを取り込んでいくための受け入れ体制を整えていく。農山漁村での民泊、空き家の活用だけでなく、今ある施設に付加価値をつけて富裕層に来てもらえるしくみづくりが必要だ。また、キャッシュレス、Wi-Fiの整備、地域周遊のための路線バスや高速バスの利用など、ハード・ソフト両面から整備を進める必要がある」と、今井さんは今後の計画を語る。

これらを実行するのは人。観光地域づくりのリーダーは育っているが、北部を中心に人材はまだ不足しており、外国人労働者の受け入れも視野に、地域全体で住みよいまちづくりを進めていくという。観光都市・京都市とは違う顔を持つ「もうひとつの京都」。地域の底力が問われるのはこれからだ。 **躍**



京都縦貫自動車道の全線開通に伴いオープンした「道の駅 京丹波 味夢の里」

上／茶摘み体験(宇治田原町) 提供：(公社)京都府観光連盟
下／お茶を使った土産物開発への取り組み(南山城村)

した。また、京都丹後鉄道が観光客向けの周遊券を発行しており、国内外から観光客が急増。海拔130mの高台にあるビュースポット傘松公園へ昇るケーブルカーは、休日には行列ができるほどだ。居酒屋や喫茶店、宿泊施設などの新たな投資も増えている。

舟屋で有名な隣の伊根町では、公設民営方式によるカフェレストラン「舟屋日和」を整備。宿泊と食事を分離するスタイルの観光地域づくりを進めている。舟屋の民宿も増えており、観光客の増加によって民間投資が始めている。中部の「森の京都」では、豊か

な森林資源を活用し、ゆったりと過ごせる滞在地域をコンセプトに事業を推進。国定公園のビジターセンターや地域の材木を使ったトレッキングセンターなどを整備した。美山を中心に農家民宿のほか、茅葺民家をカフェやオーベルジュに改装したり、一棟貸しをするなど、新たな動きが出ている。京丹波町ではホテルの建設計画も進んでいる。

国内外からの観光客向けの周遊券を発行している京都丹後鉄道。写真は下天津駅



美山川上流での沢登り